

鈴秀四季



No.55
Autumn
2019



秋 しゅうい
意

「人を育てる」

三重菟野町吉沢のコスモス畑 撮影：譜久鳥

こんにちは、技術部技術開発課の有吉です。この秋号が発刊される頃には随分涼しくなっているのですが、執筆している今、実は残暑も残る9月のはじめなのです。ピークに比べれば日中の暑さはほんの少し和らぎ、特に朝晩は過ごしやすくなった気がします。めぐる季節のなかでつかの間、私のとても好きな時期でもあります。

とまあ、そんなことはさておき、今回私が取り上げたテーマは、『人を育てる』です。

なんか指導者や経営者がこぞって読む本のような堅苦しいタイトルですが、何のことはない子育ての悩みレベルの話です。私には今、息子が2人おります。この秋には、お兄ちゃんは6歳、弟は4歳になっています。私にとって、とてもかわいく、とても大切な存在です。帰宅すると、「パパ帰ってきた！」の声とともに玄関まで迎えにきてくれます。ときおり「お帰り！今日はお仕事疲れたからビール飲んでいいよ！」と優しいことを言ってくれます。この瞬間、一日の疲れとか、ストレスとかどうでもよくなるのが不思議です。

世の中でよく言われることですが、親も子育てを通じて、「親」として成長していかなくてはなりません。日々成長するわが子をかかわりがあってばかりではいけない。人として最低限他人に迷惑をかけないよう、躰ることも大きな役割となります。でも、これがなかなかうまくいかない。良くも悪くも『子は親の鏡』。私たち夫婦が普段遣っている言葉や行動をよく見ているようで、子供たちの言動に「親」の影響を感じる事がしばしばあります。「親」としての立ち居振る舞いを意識したり、話し方や伝え方の工夫をしたりと、子供たちの目線を意識して自分自身の普段の生活を過ごすことを心がけています。子供ができた6年前の自分とは、大きく変化した部分です。それなりに歳を経ているので、精神面だけでなく体力の衰えも感じるこの頃です。子育ての成功、失敗それぞれの判断基準はとても難しいですが、少なくとも「失敗だった」と反省することのないように育て上げたいと思っています。

さて、ここまでは本当に子育ての話でしたが、タイトルの『人を育てる』はなにも子供だけの話ではありません。社会人デビューしたばかりの新人たちにとっても、最初に教育を受ける先輩、上司の影響はとても大きいものです。皆さん自身、最初についた先輩や教育担当者から学んだことが、後の仕事のやり方、判断基準に影響しているってことありませんか？

「三つ子の魂百まで」とは言わないものの、初期教育時についてしまった変な癖を矯正するのは結構難しいものです。長く続く社会人生活、「あの人に教わって失敗だった」と思われたいようにしたいですね。新入社員や、部署移動で配属された部下や後輩たちの教育に当たる指導者のみなさん、『子は親の鏡』の意識を持ちましょう。彼らにどう伝えれば正しいのか、それが彼らにとって本当に役立ち、良い結果を導くことができるのか、何より人間としての成長につながるのか。そのようなことを意識して、部下や後輩と接してみたいかがでしょうか。



技術部 技術開発課課長
有吉 光

そろそろ言わせてもらいましょうか…

鈴秀 “はえぬき組” & “転職組”

中堅社員
座談会

昨年度下期、鈴秀工業の将来を背負ってもらう中堅どころが集まって研修を行いました。昭和後半に生まれ、その青春のすべてを平成で過ごした本社と各工場の10名が対象者。「理想の管理職とはなんだ!?’ などという途方もないテーマを掲げて、現在の上司のアラ探しをしたようです。そんな中から厳選したメンバー5名(実のところ、スケジュールの関係です)を招集。中途社員が活躍できる職場が当社の特徴。それを象徴するように、ここでも転職組の比率が多いようです。入社タイミングは違えども、同じ研修で「次代を担え!」とハツパをかけられた中堅社員の立場で、ざっくばらんな意見交換をしてくれました。なお、この企画は品質保証部の鈴木登季夫君にお願いし、進行と編集を担当してもらっています。

～生え抜き社員だから思うこと…。

転職社員だから感じること…。～



同 鈴木 さっそくですけど、皆さんが鈴秀と関わったきっかけを教えてください。

向井 お世話になっていた大学の先生に鈴秀工業を勧められたのが、最初のきっかけですね。本当のこと言うと、高層ビルのオフィスなんかで颯爽とスタイリッシュに働いている自分をイメージしながら就職活動してたんですけどね。学校での説明会に参加した時、「よく来たな」なんてフランクな感じ



で迎えてくれたのと、本番の面接でも高校時代の部活での頑張りをすごく評価してくれたのが嬉しかったのを覚えてますね。

先生からは、地元で創業して歴史も長い会社なんで、リーマンショックでもピクともしないって推されました。お世辞にも鈴秀工業は学生からの知名度は高いとは言えないけど、「人を見てくれる」という点で、ご縁があって良か

ったなあと思ってます。

有吉 自分は中途入社だけど、いろんな募集媒体で鈴秀工業の名前は見かけたことなかったなあ。きっかけは、たまたまの紹介。いざ面接をうけたとき「鉄についての知識は、まったくありません」なんて聞き直しても、そんなことは頓着せずにほかの部分の評価してくれた。「人を見る会社」っていうのは実感かな。僕もご縁あって入った以上、どこまでできるかは別として与えられた技術者というフィールドで新しいものにどんどん挑戦したいと思ってる。

橋本 自分の前職はプログラマーで、とにかく残業が多かった。忙しさに堪え切れずやめる社員も多い業界だね。結局のところ、自分自身も体調を崩しちゃったのがきっかけで辞めたんだよね。次は失敗したくなかったんで、真剣に考えましたよ、転職先については。将来性も考えて「環境関連の現場で働こう!」って探したとき、見つけたのよ鈴秀工業を。当時の鈴秀は、有松の工場(廃プラスチック)と(木材)を混合させて「スーパーウッド」を生産する事業を立ち上げたばかりで、「ここだっ」って応募したの。希望通り有松工場で働けた



んだけど、結局はパソコン作業が多くなって…。数年後には「スーパーウッド」事業は閉鎖…。なかなか思ったようには人生っていかないよね。そんなことで、入社 배경に夢がなくなってしまいましたね。

田中 もともと学生時代の僕は、なにかひとつを究めるって感じじゃなくて「いろんな製品や部品の設計に携わりたいなあ」なんて思っていました。だから技術者派遣の会社に就職したんですけど、一番最初に派遣された会社が鈴秀工業でした。



三重工場 [冷圧部品の工程設計] や [ボールネジ加工の図面] の仕事が主な担当だったんだけど、技術者なんていってもちよっと前までは学生で、見るもの聞くもの全部が解んなくて、大学の図書館で専門書と首ったけ、やっとのことで仕上げた資料も、当時の上司からは「これはダメだね」って言われて、いつもへこんでた。

悩み続けた3年間の契約が満了するころ、鈴秀から「社員にならないか?」って話をもらって、就職することを決めました。あんなに悩んで仕事してたけど、三重工場の仲間がみんな気さくで優しくって、飲み会でも隔てなく誘ってくれたのがとても嬉しかった。この人たちと仕事を続けたいって思ったんですね。

同 鈴木 入社 のきっかけはさまざまでしたが、入社して何か思うことってありますか?

橋本 有松工場が閉鎖されたことで、考えていた環境関連の仕事が消滅して、本社工場への移動になっちゃった。ここで

辞める、という選択肢もあったけど、プライベートで結婚を考えていた時期と重なってしまって、辞めるに辞めれない状況だったんだよね。「とりあえず、与えられた職場でやってみるか!」っていう感じで今まで…。それでも振り返るといろんな経験して、いろんな人たちと関わって、家族との今の生活を考えると、間違いなく満足度は高いと言える。

前の職場の仕事と比べることができるからかもしれないけど、自分の時間を確保できることが大きいかな。休んだ時に周りの仲間がフォローしてくれるんで、有給休暇だつてとれるし。

有吉 自分の前の職場も比較的、有給休暇の取得率は高い方だったけど、鈴秀の方が断然取りやすい環境だと思うよ。転職した自分だから言っても説得力あると思うんだけど、「自分ひとりが1日いないくらいで、会社はつぶれない」って。だからといって、「気ままに休もうよ」って言ってる訳じゃないよ。ちゃんと周囲には迷惑をかけない工夫とか、配慮をしたうえで休暇を取ることで自分の生活を大切に。そうすると仕事に埋没してたら気づかないことも、少し冷静に考えられたり…。

向井 営業やってる自分の場合、今の仕事状況で有給休暇なんて取れる気、全然しないですね。営業っていう仕事柄、人と人の会話や情報伝達に一貫性を持たないと説得力が生まれにくい。だから自分としては、取引の最初から最後まで関わっていないと不安っていう部分大きいのかもかもしれませんね。結局のところ、(そんなことも割り切って、有給休暇を取るのか取らないのかっていう判断は) その人の考え次第なのかもしれませんよ。まだまだ、「社員全員が平等に休みを取りやすい」って状態にはなれていないと思うんですけど。

橋本 向井君がいうことも理解できる。自分も担当する業務の内容が大きく変わった時には、やっぱり有給休暇は取りづらかったもんな。そういう意味で言えば休みたくても、業務



製造部 田中 嗣人 はえぬき組

三重・四日市育ち。祖父母の代までA型と堅物(のはず)。週末はうまいメシ・酒を求めて、四日市・名古屋をふらふら。太らない為に自転車走ってます。

【経歴】
2009年 : 三重工場派遣社員
2012年入社 : 製造部(三重工場)



営業部 向井 政彰 はえぬき組

高校まで野球漬けの日々を送り、中学まではプロ野球選手になれると勘違いしてました。今は止まっているボールを打つのに必死です(ゴルフ)。あとは今日(10/1)からダイエットも。

【経歴】
2010年入社 : 磨棒鋼線部 販売管理課
2015年 : 営業部(三重工場 勤務)
2016年 : 第2営業部(本社工場 勤務)



技術部 有吉 光 転職組

趣味はドラム。バンドも10年近く続いている。オリジナルメンバーは自分のみ。休日はいいパパになりたい。

【経歴】「水栓関係メーカー開発部」
→「総合商社技術部」を経て
2013年入社 : 製造部→テクノ/鈴秀
2015年 : 技術部へ配転



製造部 橋本 康則 転職組

趣味は釣り。特に船でのジギングにハマっています。自己記録更新を目指し、お小遣いの範囲で船に乗ってます。

【経歴】「プログラマー」を経て
2004年入社 : 有松工場採用(同年 工場閉鎖)
2004年 : 磨棒鋼線部(CH掛)
2019年 : 製造部(磨き掛)



品質保証部 鈴木登季夫 転職組

(インタビュー) 釣り&旅行が趣味だが、最近は旅行ついでに釣りをしているか、釣りついでに旅行をしているかよくわからず。結局、家族旅行は知多半島の島に落ち着く。

【経歴】「通信会社 営業総務技術」を経て
2018年入社 : 品質保証部



上で休めない人は絶対にいるよね。仕事を個人で抱えない工夫や組織作りが課題なんだろうね。

それに加えて、環境作りのうえでも立場が上位にある人たちが率先して休んでもらえると、部下たちも少しは休みやすくなると思うんだけどね。

田中 三重工場は部門が4つあって、それぞれが独立した業務を担っているから、それぞれの所帯は、実は小さいんです。少数精鋭って感じで仕事を回しているんで、有給休暇で誰かが休むと業務バランスが取れない状況に陥っちゃう。納期に追われる現場がそんな環境なんで、全体の雰囲気としては有給休暇を取りづらいつてところありますよ。

向井 三重工場の状況はよくわかります。フリーな人がいないから突発で休まれると、即 納期調整が必要になることがありますね。だからといって「休みを取る人=悪」と言ってるわけじゃなくて、「有給休暇を取れる人は取れる、でも取れない状況の人は取れない」っていう状態になっていることが問題なんじゃないですか。

橋本 自分が所属している第1製造部の場合、そんなときはカバーが入れるような体制が作れているんじゃないかな。とはいえ、暇になった場合の人員バランスが悩ましい問題だけだね。

有吉 仕事を専門性のあるものと、単なる作業に分けることができれば部門間で人員派遣なんてこともできるんだけどね。第1製造と第2製造では、作業の応援は実施しているんで理想的だよ。山口工場、三重工場は距離的にどうかな。相互応援はハードルが高いかもしれない。

司 鈴木 応援という話題が出ましたが、他部門との関係性を深める意味でも「部門間ローテーション」ってどう考えます？

向井 大手商社や銀行だと、人材育成とか組織の活性化なんかを目的に人事のローテーションが基本になってるみたいだけど、お客様や協力業者目線で考えれば窓口担当がコロコロ替わるのはキビシイと思いますよ。社内的には良い点もある反面、製造業の営業担当としては、一つのお客様に長く接する方が良いと思うんですけど。

有吉 社内だけのことで言えば、部門間ローテーションはいずれやった方が良いと思うよ。

営業部門では、引継ぎ期間でもなければ複数の担当者を配置させるのはなかなか困難だろうけど、品質保証では、すでに業務を先輩と後輩のペア連携で担当しているからやり易くなってるよね。そこに部門間ローテーションの導入なんてことになれば、先輩に頼っているばかりではいられないから、必然的に若手社員の成長が早くなるだろうね。

橋本 そうね、製造部、品質保証部と技術部間でのローテーションは良いかも。



向井 そこで括らないで「ローテーションでぜひとも営業職を経験してみよう!」っていうのをやってほしいですよ。営業は社内人気が極端に低い部門なんですから…。

不人気の理由はたぶん「本当に自分は営業には向いていない」っていう個人の性格的なものと、「以前から営業に配属された社員がどんどん辞めていった…」っていう、悪い組織イメージが影響してるだろうけど、本当は楽しい職場なんですけどね。

田中 実は、ずいぶん以前にある人から「営業に来ない?」なんて聞かれたことあったんだけど、腰が引けちゃって、速攻で断ったんだよね。僕の場合はイメージじゃなくて、自分の性格的な方だけど…。今の自分だったら、営業部門つてもアリ。これからの自分のためには良い経験になるって思える。別に営業に限らず、三重工場の仕事だけしか見てきていない自分にとって、鈴秀工業の他部門すべてに興味わいている。もっと言えれば同業他社のことももっと知りたいよね。

司 鈴木 具体的に、他部門との連携や関係性について感じることは？

有吉 基本的に新卒から技術部に配属される若手は、この部門しか知らないまま育ってしまいがちなんで、どうしても視野が狭くなっていくのが心配かな。営業担当と一緒にお客様を訪問して、技術的な案件や課題をヒアリングしたり、説明できる機会が増えれば良いと思うなあ。

橋本 製造現場でなにか不具合が発生したとき、お客様に対して技術の裏付けがある知識を駆使してロジカルに説明できる自分になりたいし、組織もそうあるべきだと思う。だから製造技術には大いに興味があるよね。

田中 今の三重工場は、製造と品質保証が協力連携してお客様に対応できているんで、ある意味理想的かな。ただ、仕組みというよりは主体的に動いてくれる個人の力なのかもしれないけど。

向井 営業の立場からすると、品質トラブルについては営業が説明するのと、品質保証が説明するのとでは説得力の差を痛感してますね。だから、ぜひとも積極的に同行してもらいたい。でも、技術案件については営業単体の方が都合がいいですね。技術や品質保証が同席してると、どうしても『できるかできないか』っていう問いかけを受けたとき、社内の壁を意識してネガティブな回答に傾きやすくなるんですよ。でも、そこに他社との競争や将来に向けてのテーマがあったとすれば、会社としてあらゆる面から検討するべきだから。(現時点) (担当の考え)でだけ『可否』を判断するのは、危険なんで営業に任せてもらいたいですね。

司 鈴木 今の我々の立ち位置で「鈴秀をもっとこうしたい」なんてことがあります？

橋本 とにかく仕事をもっと「楽」にしたい。AIとかIoTとか新しい技術を駆使して夢のある仕事をしていきたい。製造だけではできないんで、他の部門と協力しながら動けたら良いよね。

有吉 自動化にしても、ロボットにしても会社としてはその方向で動き出しているんで、興味を持った人たちと一緒に活動したいと思っています。

向井 前向きに自ら手を挙げていく人材を増やしていきたいですね。有吉さんのリーダーシップでゴリゴリやってください。



有吉 それじゃ、まずは雰囲気作りからかなあ。製造事務所の2階エリアを明るくしなくちゃ。休憩時間になると、みんなスマホいじって下を向いてるのはいただけないなあ。節電活動で電気を消してる上に、ブラインドが下したままになっているので、物理的にも暗いよね。

向井 人間関係が薄くなって仕事ができなくてわけでもないでしょう。特に問題はないとも思えるんですけど…。向かい合わせの机に座っていても、「ちょっとした雑談さえしたくない」なんて思っている人がいるかもしれないんで。実際、いろいろ試しながら周囲の反応見るしかないんじゃないですか。ただ、この手の話を押し付けていくと面白く思わない人もいるから慎重に。

有吉 最低限の仕事をする上では、特に支障は来しているわけじゃないんだけど、雑談が弾むことで関係性も深まって自分で抱え込むんじゃなく、相談ごとが増えるんじゃないかなと思う。一般論としても「陽(明るい力)」より「陰(暗い力)」の方が周囲に伝播しやすいらしいので、できる限り明るい雰囲気にして「陽(明るい力)」を広めたい。人づきあいが苦手な人も少しだけでも変わってくれたらうれしいもの。

橋本 僕も、笑顔の場には良いことが訪れると思っているので、賛成です。

有吉 転職組の僕が鈴秀に、少し暗さを感じているとしたらきつと、前の職場の明るい雰囲気と比べてるからかもね。辞めた会社だけど、本当に良い雰囲気だったから。

小さなことかもしれんけど、昼休みにはブラインド上げますか。環境を明るくして自分はスマホを触らず、周囲に話しかけまーす。

向井 じゃこうしましょう。ここにいる5人は、毎日周囲に話しかけて職場環境が明るくなるように試してみましようよ。

田中 ちょっと無口な性格の人でも、どっかのタイミングで相手から話しかけられたら嬉しいんだろうなあ。

◎ 鈴木 ◎ 社内コミュニケーションという面でプライベートでの集まりについては？

橋本 前の職場でも「飲み会」はあったし、それ以外でも仲の良い小グループで集まったり、鈴秀と同じくらいかな。

田中 三重工場には以前、「レクレ



ーション部」があったけど、いつの間にかなくなってしまっ…。やっぱり幹事にはパワーがいるんで「何かやろう！」って気合入ってる人がいなくなると次の機会が続かなるんでしょうかね。

有吉 実は現場の人たちが「BBQやったよ」とか「ラフティング行ってきた」なんて話は聞くけど、事務所の人たちの交流がちょっと少ないなと感じてる。前職では「バスケット大会やろうぜ」なんて声かけあって、関係会社も巻き込んで30人規模の大会になったことあるよ。

向井 こうなりや親睦会の旅行とか、忘年会みたいな定期イベント以外で何かやるべきですね。登季夫さん、とりあえずなんか一発やってくださいよ。

◎ 鈴木 ◎ ゴルフ、釣り、ボーリング…。きっかけは何でもいいんで、まずは本社で企画してみようか。1回で終わらせてはダメなんで、みんなが毎回楽しんで続けられるようにしたいよね。



座談会を終えて

前述したとおり、鈴秀工業には「生え抜き社員」と「転職社員」が混在しています。

同じ世代といえども、「転職社員」には『前の会社』という比喩のためのモノサシがあり、今の職場である鈴秀工業と比較することが可能です。ネガティブにとらえず、良いところは吸収しようという風土がこの会社にあることが誇らしく思えます。今回の座談会では意見交換にとどまらず、活動指針としての「決意表明」までアウトプットできました。どのように実行されていくのか、みなさん期待してください。

品質保証部：鈴木登季夫

座談会参加者の決意表明

- 一、毎日 周囲に話しかけて“明るい職場”にすることを目指します！
- 二、社内を盛り上げるために、「交流イベント」を企画・開催します！
- 三、部署を横断した活動を積極的に行い、会社の可能性を拡げます！

働き方改革が声高に叫ばれる中、中堅社員となった彼らにも様々なことが見えてきています。

昭和・平成初期のモーレツ社員世代の父親たちと、ゆとり教育の後輩たちの狭間で、自分たちの立ち位置を決めかねている迷いのようなものさえ感じます。ワークライフ・バランスを上手にとりながら、仕事に組織に向き合うことはとても難しい課題。これからの時代を彼らがどう切り開いてくれるのか、とても楽しみです。

下関市

おすすめグルメ その1 あんこう(旬は11月~3月)



以外に知られていませんが、実は下関のあんこうは絶品。
聞いたことあるけど、なかなか食べる機会がないお魚ですが、食通が皆絶賛する深海魚です。
茨城県日立沖のアンコウが有名ですが、水揚げ量は下関がダントツ1位。響灘を漁場とし、水深90mの泥地・砂地を底引き網でゲット。ご当地のスーパーでは、冬場のお鍋用食材として一般的に売られています。見た目はグロテスクですが、美味。歯以外は全部食べられ、特に肝は抜群のおしさ。

絶景スポット① 角島大橋(ツノシマオオハシ/下関駅から車で1.5H)

山口の海、結構きれいなのであります。それを実感できるのが、写真の角島大橋。



まっすぐ島に向かって伸び行く道路は、CMにも使われている話題の場所。橋の長さはセブンマイルに及びませんが、まるでフロリダのキーウエストのたたずまい。道の先に、たぶんヘミングウェイはいませんが地元の気の良いおじさん、おばさんが民宿で待っています。

手前の国道191号線沿いは、地元の海鮮でもてなすお店がわんさか。道の駅ランキングNo.1となった「北浦街道 豊北」は寄り道の価値あり。

おすすめグルメ その2 謎のおさかな、金太郎&平太郎



この地域で良く食される謎の魚が「金太郎」と「平太郎」。
見かけは金魚のかい版、正式な名前は「ヒメジ」だとか。全国的には「金太郎いわし(丸々太った鰯)」が有名だけど、山口では「金太郎」といえば、これしかない。
一方、「平太郎」は平べったい小魚で「まめアジ」程度の大きさ。正式名は「オキヒイラギ」。どちらも他の地域では、悲しいかな雑魚(ざこ)として遠ざけられています。底引き網で引き揚げられた太郎ちゃんたちは地元の人気者。どちらの名前の由来も詳しくはわからないけど、このネーミングは、間違いなく愛されている証拠なのです。
「金太郎」も「平太郎」も干物にして食べるのが一般的らしい。家庭だけでなく、ご当地の居酒屋さんでもレギュラーメンバー。あぶった「太郎」を酒の肴に、今夜も山口のおじさんたちはほろ酔いなのです。

関門海峡 交通の歴史

瀬戸内海と東シナ海を結ぶ重要な航路。海峡は幅の最も狭いところで600m程度しかありません。その狭さゆえ、潮の流れはとても激しいことでも有名。1日に4回(2往復)に及ぶ海流の変化があり、最大で10ノット(18.5km/h)のスピードは、昔も今も交通の難所といえるでしょう。江戸に始まった日本海側の海運「北前船」。北陸より北側(蝦夷地まで)から瀬戸内(大坂)までを結ぶ航路の要でした。明治以降は陸上交通(鉄道)が伸びたものの、陸続きではない九州への中継ポイントとして下関は発展しました。

1901年 関門連絡船が就航。(最盛期には1日53往復)

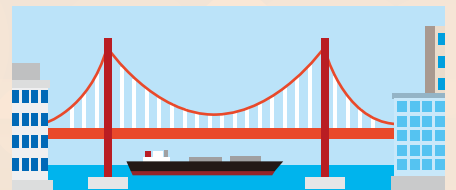
九州の炭鉱で産出された石炭の輸送、農産品や工業製品の双方輸送が急拡大したことで物流のボトルネックが顕著となり、対策としてトンネルや橋が必要となりました。これらの工事には常に最先端の土木技術が用いられ、関門海峡の歴史が日本の土木技術の歴史ともいえるのです。

1942年 関門鉄道トンネルが開通。(世界初の海底トンネル)

1958年 関門国道トンネルが開通。(車道+人道)

1973年 高速道路の関門橋が開通。(当時東洋最長の橋)

1975年 新関門トンネルが開通(東海道・山陽新幹線区間で最長)



下関ものがたり

その昔、このあたりは「長府(チョウフ)」と呼ばれていました。長門の国府があった名残の名称で、江戸時代は長州藩の支藩である「長府藩」が行政を担当していました。

下関の歴史を語るうえで、外すことができないのが本州と九州を分かつ「関門海峡」です。狭い水路(600m程度のところもある)と潮流の激しいこの海峡の名は、馬関(現在の下関)の関、そして門司(北九州)の門をとって名付けられました。



この海峡はまた交通の要衝であり、歴史の重要拠点でもありました。古くは平氏終焉の地、そして幕末の長州藩を変革させる起点ともなります。「蛤御門の変」、「第一次長州征討」、「四国連合艦隊の襲来」で長州藩はもはや壊滅状態でした。このままでは幕府に潰されそうの中、高杉晋作がたつた80人を従えて下関の功山寺で起ち上がり再度長州を蘇らせました。押し寄せる15万もの幕府軍を追い

やったことで弱体化した幕府は瓦解し、明治維新へとつながるのです。

因みに、かの英雄 坂本竜馬と愛妻 おりょうが最後に過ごした場所としてゆかりの地もいっぱいあるんです。

壇ノ浦の戦い 1185年



神戸の「一の谷の戦い」、高松の「屋島の戦い」で家軍は、いよいよ源氏の義経軍に追い詰められ

戦場が得意な平家軍は、下関の彦島に集結し義経

ます。開戦当初は優勢に進んでいたものの、にわかにな

弄され、敗色が濃くなるとターゲットを

大将の義経に絞り、執拗に狙っていき

ますが、鞍馬山で天狗に指南された源

義経(牛若丸)、船から船へと飛び移る「八艘(ハツソウ)飛び」で攻撃を躲けてい

きます。進退窮まった平家の最後の猛将「平知盛(タイラトモモリ)」は体に錨を巻きつけて入水して

の碇潜(イカリカツギ)、名実ともに平家が滅亡したのです。

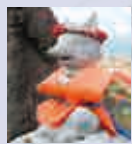


絶景スポット② 元乃隅神社(モトノスミジンジャ/角島大橋から0.5H)

長門市に少しばかり入ったところにある鳥居が美しい神社。海にせり出した岬へ続く、朱色の鳥居の数は123本。岬の緑、海の青、長く連なる朱色のゲートは米CNNで「日本の最も美しい場所31選」に選ばれて、海外の旅行者が殺到。一躍有名になりました。因みにこの鳥居、1本が2万5千円と割安で奉納できたため大人気。その距離に制限があったのでこれ以上増えることはないようです。



神主さんの思い付きで、賽銭箱は裏参道出口の大鳥居上部(約5m)に設置。願い事が叶うかどうかは、そこに投げ入れるかどうかの結果次第というところか。商売繁盛のみならず、何でも成就祈願できる超パワースポット。挑戦しないという選択肢はないでしょう。



何はともあれここに祭られているお狐様は、津和野にある太鼓谷稲成神社(タイコダニナリジンジャ)を分霊していて、「稲荷」ではなく「稲成」と書く。全国でこの二社だけがこの文字を使います。



関門海峡周辺さんぽ

下関市立の水族館「海響館」は、海峡に面した場所にある。関門海峡の水流の速さを体感できるほか、土地産物のフグに因んで、世界中から集めた100種類以上のフグを展示しています。イルカタッチやペンギンタッチなどの動物に触れられる体験もあり、スタッフが常にイベントを考え、飽きさせない工夫をしています。



圧巻は、日本唯一のシロナガスクジラの全身骨格標本、施設の1階から3階にかけての吹き抜けいっばいに展示されています。

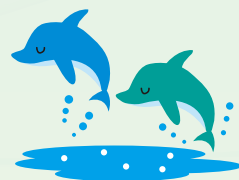


水族館プロデューサーの中村元氏は、国内に100以上もある水族館の中で水中世界を最も体感できる水槽、癒されるランキングで4位にランクさせました。今や日本一とも称される名古屋港水族館をしのぐ展示種も自慢です。

海響館	延床面積	14,400㎡
	展示種	550種 35,000点
名古屋港水族館	延床面積	21,707㎡(日本一)
	展示種	500種 36,000点

「関門海峡潮流水槽」では、関門海峡に発生する渦を再現

関門海峡潮流水槽が特徴。国内では珍しいイルカとアシカの共演ショー「アクアシアター」の実施や、小型のクジラの仲間であるスナメリが作るバブルリングのパフォーマンスなどが見所どころ。



すぐ隣の観光用連絡船の発着場を利用すれば、5分ほどで対岸の門司港まで行けます。幕末以降の史跡やレトロな建物が数多く残っています。バナナのたたき売りの発祥地でもある門司港、今でも実演販売が見られます。



鈴秀工業 企業サポーターズクラブ

鈴秀工業は、ご紹介しているしものせき水族館「海響館」のサポーターズ企業としてその運営を支えています。郷土が誇る水族館をみんなで応援しましょう。

1名分の入場が無料となります(2000円→0円) 同行者5名までの入場料が半額(大人も子供も) その他、近隣提携施設の入場割引もあります 特別入場無料券が、年間10枚いただけます(先着10名分)

ただし、鈴秀工業と記名された「会員証」が必要。会員証は山口工場/総務係が管理していますので、貸与してもらってください。(詳細は総務まで)

巖流島の決闘 1612年?

謎多き剣豪「宮本武蔵」は、吉川英治の小説によって作られたヒーローだともいわれています。史実と物語(ストーリー)に多少の差異はあるものの、映画やドラマ、小説、漫画など幅広くとりあげられたため、今では世界中でジャパニーズ・サムライの代表的人物として認知されています。剣の道を究めんと、数知れぬ戦いに明け暮れた彼の最大にして最強のライバルは物干し竿と称されるほど長い刀を使いこなす、佐々木小次郎でした。「燕返し」という必殺技に対し、船の櫂を削った木刀で挑む戦いは、あまりにも有名。関門海峡に浮かぶ無人の島の名前は、実名=船島。巖流島と呼ばれる由来は、佐々木小次郎の号であり、流派でもある「巖流」からきています。40分おきに出発する連絡船で、航路10分程度で上陸できます。



四国連合艦隊の来襲 1864年

幕末、尊王攘夷の急先鋒として開国に反対していた長州藩が、前年(1863年)に朝廷と幕府の合意事項として約束された攘夷決行日(5/10)を機に、馬関沖を航行するアメリカ・フランス・オランダの商船を立て続けに砲撃、海峡封鎖しました。戦闘準備をしない船舶への攻撃は国際法に反することから、米・英・仏・蘭の四ヶ国は協調。17隻の戦艦に5,000人以上の兵を乗せ、288門もの大砲を備えた連合艦隊を組織しました。翌年(1864年)8月、徹底的に下関を砲撃し、上陸。3日間で長州の砲台を壊滅させました。外国の力を思い知った長州は、それまでの攘夷志向を捨てて開国、討幕の道を選択したのです。無謀な戦いではありましたが、鎖国日本の目を覚まさせた大きな出来事でした。



惨敗をした平賀源一。海上での海軍を迎え撃ち、潮の流れに翻



果ては平賀源一。銅像が作

鈴秀リボンプロジェクトはじめます！

男性社員も
必読デス！

■今月は、“乳がん”について

緊急報告

鈴秀工業の『女性のがん検診 受診状況』

日本人女性の11人に1人は“乳がん”に罹患するとされ、その罹患率は30代後半から急増、40代後半で最も高くなります。

このように身近な“がん”であるにも関わらず、当社の検診実施率(平成30年度)は、17.6%と低い値でした。これを重要な健康課題と考え、2020年度から当社が目指す「健康経営」の取り組みとして、【鈴秀リボンプロジェクト】始動します。

業務時間内の受診を可能にし、費用を会社と健保で全額負担することで受診環境を整え、受診率を向上させ、安心の確保と異常の早期発見に繋げようという取り組みです。

ゆっくり進行していく“がん”。
初期段階は症状がでません。だからこそ
『検診』でチェックをしてほしい。

乳がんってどんな病気？

① 乳がん罹患率は、女性がかかる癌の第1位です。

乳がんは、乳房のなかの母乳をつくる場所(小葉組織)や母乳を乳首まで運ぶ管(乳管組織)から発生する悪性腫瘍です。乳がんは、30歳代後半で急増し、40歳代後半と60歳代前半にピークを迎えます。若い女性にとっても、乳がんは決して他人事ではありません。

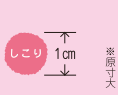
② 乳がんは早期発見・早期治療でほとんどが治るがんです。

早期乳がんは腫瘍径が2cm以下で、リンパ節や他の部位に転移が無い状態で90%以上の治療が期待できます。
※全国乳がん患者登録調査報告(2011年症例)より

③ 乳がん患者さんの約半数が自分で異変に気づいています。



自分で触って偶然見つかる乳がんのしこりの大きさは2センチ以上です。



マンマチェックを習慣にすると1センチの大きさにも気づけるようになります。

※しこりは何年もかかって大きくなるものと、短期間で大きくなるものがあります。

❗「しこり」にならないタイプの乳がんもあり、早期に発見できるのがマンモグラフィやエコー検査です。

“乳がん”の検診には3つの方法があります

① 視触診 … 医師の目と手でチェックします



乳房の変形やくぼみがないか、皮膚のただれや乳頭からの分泌物がないかなど、乳房の様子を調べる検査です。

② 超音波検査 … 画像を見ながら行います



乳房に超音波をあてて、画像を見ながら行う、痛みのない検査です。乳腺密度が高い人や、若い人に適しています。

③ マンモグラフィ … 乳房専用のX線検査



乳房を圧迫板ではさんでX線投影する検査です。40代以上の乳房を診るのに適しています。

Q 超音波検査とマンモグラフィ検査、どちらを受けたらよい？

一般に30代以下の人は超音波検査、40代からはマンモグラフィ検査が適しているといわれます。どの検査も得手不得手があるので併用して受けてと安心です。

mamma check

“マンマ”はラテン語で“乳房”のことです



マンマチェックは月に一度、日にちを決めて行いましょう。(月経終了後や、閉経された方はお誕生日や記念日など覚えやすい日にするとよいでしょう。)

見て「くぼみ・ふくらみ」「ただれ・変色」「ひきつれ」はありませんか？

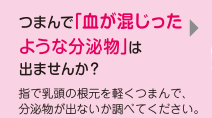


鏡の前に立ち頭の後ろで手を組み、色や形をよく見て下さい。



さわって「しこり」はありませんか？

4本指で「の」の字を書くように、指先で軽くなでるように「しこり」の有無を調べてください。



つまんで「血が混じったような分泌物」は出ませんか？

指で乳頭の根元を軽くつまんで、分泌物が出ないか調べてください。



ワキの下もよくcheck!



横になって「しこり」はありませんか？

仰向けに寝て、背中の下に低めの枕が置んだタオルを入れて、乳房をさわって、しこりを調べてください。

もし!

乳房やワキの下などに異常を見つけたら、すぐに乳腺(外)科で診察を受けて下さい。

ピンクリボンは、乳がん啓発活動のシンボルです。

ピンクリボン活動は、アメリカの乳がん患者の家族が「このような悲劇が繰り返されないように」との願いを込めて始めた「乳がん啓発活動」です。

80年代に開始された活動は、今では世界中に広がっています。日本でも2000年頃から広がり始め、毎年10月を『ピンクリボン月間』とし、「乳がんの早期発見・早期治療」を啓発、推進する取り組みが、行政、市民団体、企業など全国で実施されます。

名古屋でも名古屋ピンクリボンフェスタの一環として、**ピンクリボンチャリティーマラソン**が実施されます。

日時：2019年12月1日(日)10:30

会場：愛・地球博記念公園(モリコロパーク)



最近では、検査によって“乳がん”が早期発見される事例が多くなってきました。著名な芸能人や文化人の方々も早期発見、早期治療で克服しています。彼女たちが勇気をもって自らの罹患経験を公表する大きな理由の一つは、「早期発見」の重要性を知ってもらうこと。そのためには面倒でも、恥ずかしくても、少々痛くても「検診」を受けることが大事だと訴えてくれています。

『安心』を獲得するために、ぜひとも定期的な受診をお願いいたします。

また、鈴秀工業の社員が所属する「愛鉄連健康保険組合」では30歳以上の被扶養者の方を対象に「がん検診料金の補助」が受けられます。この制度を活用し、ぜひとも奥様へがん検診を勧めてください。大切な家族の健康のために。(詳細・問い合わせは、総務まで)

異形製造 一燈照隅

～ここにこそ花咲く～

No.55
Autumn
2019



仕事に「派手」も「地味」もないと言い切れるだろうか？付加価値を生み出すために必要な道具の準備、まえ処理やあと処理、そして検査…。どれもこれもお欠くことのできない仕事なのだ。わかっている人はその作業の大切さを知っている。そんな現場で働く4人の男たちにスポットを当ててみました。

なんの因果か、この男の車運の悪さは壮絶だ。初めて買った白の「ファミリア」、背伸びしてローン組んだ「スカイライン」、かっこつけて乗り回した「シルビア」。みんな天国に召し上げられた。そのすべては、自損事故。究極は盗難された「レガシーB4」だ、乗り捨てられて燃やされてしまった。こんな悲惨な出来事さえ、笑顔でネタにしている。考えようによっては、愛する車たちが身代わりになってくれたのかもしれない。

最初の職場は5年で辞めた。その理由も今となってはあいまいだ。過去に執着するタイプではない。若かったのだろう、少しでも稼ぎたいと次の職場は運送業を選んだ。2ト、4トのトラックで朝から晩まで無茶苦茶に働いた。どうも頼まれると断れない。自分が潰されてしまう前に危機回避のつもりで登録した「派遣会社」、いくつかの職場を経験したが30歳を超えたら、男として根っこを据えた仕事をしたくなった。そしてたどり着いたところが「ここ」だという。

14年の月日が過ぎ、今では出荷前の製品検査（表面検査）のキーマンである。長い工程を経て手元にやってきた異形磨棒鋼、最終工程の表面検査には最大限で細心の注意を要する。ここでの不具合見落としは即、会社の信用を失うことを意味する。地味だけれども市場と直結する重要な関所なのだ。「世の中、ITやロボットがもてはやされているけど、キズや模様を感知するセンサーとして人間の眼には敵わない。そこを任せられている責任とプライドを、もっと若い人に感じてもらいたいですね。」そう語る有馬の根っこは、もはや「ここ」に据わっていた。

上司は言う、「需要の波が激しい業界、忙しい時ほど彼に頼ってしまう」のだと。ここでも結局は断れない有馬がいた。でも大丈夫、今の有馬は潰れるようなヤワな男じゃあない。



有馬 俊次

第2製造 後工程(表面検査)

「正直いうと、大学行きたかったんですけどよね」。いつもは静かな男が本音を漏らした。

大学生生活をエンジョイする自分の姿しか描いていなかった。まさかの受験失敗は、18歳の濱崎に喪失感という傷痕を残した。家庭の事情を考えると浪人はできない、いや無理を言って甘えれば1浪くらいはできたのかもしれない。両親思いの彼はそれを言い出せなかっただけなのだ。大学への執着を封印して、就職の道を選んだ。半年後、少し遅れたが社会人生活が始まった。子供の頃から自動車が大好きで、車に関連する仕事を選んだ。転職もした、どれも人生をかける仕事だと思えなかったのだ。だからと言って決して濱崎は浮ついていた男ではない。あきらめた後悔があるからこそ、納得すく人生にしたいのだ。真面目すぎるのかもしれない。

数少ない趣味は車の操作、運転ではない。それも本チャンである。瑞浪あたりのサーキットコースを疾走するのが楽しかった。「ホンダCR-X」が最初の相棒だった。あれから何台の愛車に給料をつぎ込んだことか。

一見、とっつき悪そうにみえるのは、思っていることを上手に伝えることへの苦手意識が大きな要因か。本質は「気のいい頼れる兄貴」。だから同僚や後輩だけでなく上司からの信頼も厚い。気が付けば鈴秀で17年目、かけるべき何かを濱崎は見つけたのかもしれない。

今の職場は異形磨棒鋼製造の熟間先付。素材の先端を赤く熱し、ロールを締めてネライの形状に仕上げる。簡単なお仕事を出すのは難しく、作業者の勘に頼るところが大きい。気温や、湿度、素材の硬さに合わせて機械を操る作業は、路面状況の変化が大きいサーキットコースに対応してドライブしているようなもの。感覚を集中し、最適を探る。これを伝授するには苦勞を要しそうだ。「後輩たちへ先付作業を上手に伝えられるのだろうか?」、それが濱崎の目下の心配ごとらしい。



濱崎 雅也

第2製造 前工程(熟間先付)

「今でも飛行機雲を見ると、なんかワクワクします。」にこやかに小野は笑う。穏やかな男としては、間違いなく鈴秀でナンバーワンだろう。少年時代から飛行機に憧れた。鈴秀では珍しく横浜出身。夢を実現したくて高校は航空高校を選んだ。親元を遠く離れた山梨県の田舎で寮生活、飛行機つきの毎日だった。

卒業後、名古屋空港に近い小牧にある航空機関連会社に入社できた。うれしかった、あたかも夢の扉を開けたようだ。休日の出勤と残業が多いことを除けば仕事は楽しかった。ただ下請け企業の宿命か、すべてが大手取引先のいいなり。ゴールが見えない作業の繰り返し、自分の夢の形が大人たちに少しずつ変えられている気がした。あまりにも強すぎる憧れが、現実と摩擦を生じさせ、次第に小野から笑顔が消えた。まだ若かった彼が、リスタートの道を探る動機として、だれが責めることができようか。派遣ではあったが、見つけたロケット関連の仕事。一も二もなく飛びついた。大空から成層圏を超えて、一気に宇宙。そこで働くことが誇りだった。それもおつかの間、それまでに2度にわたる打ち上げ失敗の影響で事業縮小が決定、今度は働く場を失ってしまった。

夢に蓋をし、生きるために職を探した。内定をもらった3社のひとつが鈴秀だ。素材加工は「きたない・くさい(油)・くらい」まさに3Kのイメージ。それまでの職場とは全然違う。それでもなぜかここに決めた。過去の経験を繰り返したくないからか、明るい職場づくりのために、小野はいつだって笑顔で声かけをする。その歳にもなれば、いろんな苦勞事とその背中を覆っているはずなのに…小野は決して笑顔を絶やさない。

今の現場は硬い製品をまっすぐにしていく矯正工程、1年たっても微妙な力加減に手を焼いている。引抜、NC先付、表面検査…。鈴秀で過ごした16年、守るべき家族が小野の宝物になった。夢を追う少年は、立派な鈴秀のおじさんとなった。



小野 祥英

第2製造 後工程(プレス矯正)

「鈴秀で良かったのか?」と質問してみた。答えは、いつもより晴れやかな笑顔だった。

何を聞いても、なかなか本音を言わない。「なんとなく40歳になってしまいました」というスタイル。なかなか江葉はつかみどころがない。小学生の彼を夢中にさせたのが水泳。水の中では無敵だった。ところが突然、悲劇に見舞われる。水不足…。通っていたプールから水が消えた。頭の皿が乾いたか、一機に興味がなくなった。こんな理由できっぱりやめる淡泊さも、江葉らしいのかもしれない。高校を卒業し、なんとなく電気関係を学ぶ短大に進学。本人曰く、「特に電気に興味はなかった」らしい。こんなふうには肩の力が適度に抜けているせいか、友達(悪友)には恵まれているようだ。それ故か、いまだ独身。結婚を考えなくもないが焦ってもないという。ただ、「何か欲しいものはあるか?」と聞いたら、意外にも「家」が欲しいという。一国一城の主になりたいという願望か?

磨棒鋼メーカーにとって、その商品の形状を決定づける「ダイス」は命である。鈴秀のノウハウが詰まった異形磨棒鋼用となればなおさらだ。数えきれないほどある異形ダイスの管理、去年 定年退職した坂野さんから引き継いだ。この仕事の誇りとやりがいを教わった。「坂野さんようになりたい」と言わしめるほど、素直に江葉はその人柄に心酔した。「最初は超ビビリましたよ」。ダイスのラッピング(磨き手入れ)作業、実は今でも緊張する。高価なダイスに少しでもキズをつければ、大変だ。組まれた工程に合わせて準備される「ダイス」、作業が終わればまた手元に帰ってくる。鋼の形状を変えるほどの摩擦に耐え、あるものはコーティングが剥がれ落ち、あるものはキズつき焼け付いて戻ってくる。次の出番に備えて手入れし、保管する。できれば誰にも触らせたくない『オレの仕事』なのだ。江葉が「ダイス」を語っているとき、「愛」を感じたのは気のせいだろうか。

そんなことを考えたら、江葉が欲しいと言っていた「家」、もしかすると【HOUSE】ではなく、愛に満ちた【HOME】なのでは?とこやついてしまった。



江葉 直行

第2製造 前工程(ダイス係)

すずひで

ありがとうの∞

新たに始まるこのコーナーは、実に社内報らしいものになりました。

名付けて

『すずひで“ありがとう”の∞』

かんたんに言えば「鈴秀の“ありがとう”をたくさん集めてコレクションしましょう」ということ。日常の小さな“ありがとう”をこの鈴秀四季の紙面でご紹介するのです。

ところでみなさん、「ありがとう」の反対語って知ってますか？

正解は「あたりまえ」です。

- ・おかあさんが弁当作ってくれるの“あたりまえ”
- ・先輩は後輩の面倒を見るのが“あたりまえ”
- ・上司は、部下におごってあげるの“あたりまえ”
- ・先生が教えてくれるの“あたりまえ”

本当にそうでしょうか、世の中に“あたりまえ”なことなんかないことぐらい大人のみなさんなら理解しているはず。「有(あり)難(がた)い=なかなか存在しない」ことに感謝すれば、みんながハッピーになれるはず。

さあ、日常のちいさな“ありがとう”を一緒にさがしましょう。

第2製造の

清信さんへ



わたしは、いつも原付バイクで通勤しています。もう数年前のことになりますが、いつものように会社の門を通過して自転車置き場に駐車し、業務についていました。

ぞしたら、わたし宛に内線電話。電話の主は清信さんでした。職場も違うので、親しくお話ししたこともなかったの少しびっくりしましたが、わたしのバイクのタイヤに全然空気が入ってなかったことを教えてくれました。確認すると大きな釘のような金属片が刺さっていました。

自分では全く気付いていなかったのに、本当に助かりました。その時、ちゃんと伝えられなかったので、この場を借りてお礼を。

その節はほんとうにありがとうございました。

総務部 奥野 安里紗



技術部の

村上 誠さんへ



少し前のことですが、改善に必要な機材作成のため、保全エリアで加工していました。

加工の方法について、ああすれば、こうすれば…なんて考えて行き詰っていたとき、偶然通りかかったのが当時第1製造にいた村上さんでした。

部署も違うので一瞬躊躇しましたが、思い切って相談してみたところ、「自分だったらこうやるかなあ、いやこんな方法もありですよ」なんてたくさんのアドバイスをもらいました。加工の方法には、いろんな視点から見ればと改めて感じました。

そして、ふとした問いかけに対しても、親身になって一緒に考えてくれた村上さんに感謝しています。

あの時は、ありがとうございました。

製造部 第2製造課 清信 俊文



好評いただいていた『われら麺倶楽部』は、おかげ様で2019年夏号の99軒のご紹介で一旦お休みさせていただきます。100を目前にしての決断は、次の展開に含みをのこした姑息な手法なので編集部を責めないでください。

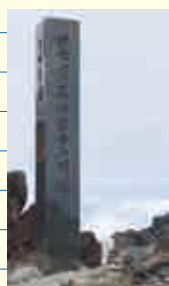
チーフのひとり言

経理課 南部 厚子 「山と酒と私」

子供の頃から飽き性の私が、趣味の登山だけは飽きもせず続けています。山の魅力にはまってから、20年。今では、厳冬期の1~2月を除いてほぼ毎月、低山から海外トレッキングまで出掛けるようになりました。登山が趣味でない方からよく、「山の魅力は？」と尋ねられますが、実は私も漠然としていて、歩いた人にしか見られない絶景が待っているという事は間違いないですが、季節や天候、時間によって、同じ景色は二度と見られないというのも魅力ではないでしょうか。達成感も魅力のひとつであると思いますが、私にとっては、重いザックを担ぎ、仲間と一歩一歩進み、無心になって歩き、体がクタクタに疲れるほど歩けば、日常感じている心のモヤモヤが晴れるのも魅力です。山は私にとって人生の先生で、色々な事を教えてくれます。天候が悪ければ修行のような日があったり、判断を間違えば死に至る事もあります。仲間だけでなく、人を思いやる気持ちはとても大切で、



疲れてくると自分よがりになりやすいのですが、みんなが楽しく安全に登頂できるよう、最善を尽くすことを心掛けてなくてはいけないということも教えられました。それから、何といても歩いた後の“お酒”は格別。ザックの中には山小屋で飲むための“お酒”をこっそり忍ばせます。開栓のその瞬間を楽しみに、肩にくい込むザックの重さもなんのその。仲間やそこで出会った人たちの乾杯は、最大のモチベーションでもあります。



今年15年ぶりに、7月と9月の2回、富士山に登頂しました。ルートは違いますが、2回とも仲間全員、高山病になることも無く、無事登頂することが出来ました。

9月は会社の仲間とともに行ってきましたが、私の誕生日とも重なり、日本一の山、富士山でお祝いしてもらいました。本当に心温まる誕生日となり、感謝しています。m(_ _)m 下山途中では、脱水症状で動けなくなった人の手当てをしたり、一人で来ていたアメリカ人と仲良くなり、一緒に下山したのですが、私のカタコトの英語がみんなにバレて恥ずかしかったり、大砂走(火山灰が厚く積もった道で、ピョンピョンと駆け下ります)でみんなとハシヤいで動画を撮ったり、記憶に残る楽しい登山となりました。まだ、「お疲れ山(さん)飲み会」をしていないので、山の魅力と次回の計画でも語らいながら、乾杯できるといいなあと思っています。





あかちゃん誕生

個人情報保護のため、
割愛させていただきます。

○結婚おめでとう

個人情報保護のため、
割愛させていただきます。

○実習生の紹介 *selamat datang* (ようこそ)

実習生 本社6名

8月入社

10月入社



トリディ
クルニアワン



キキ
マウラナ



ワフウ バグス
ロマドン



セプティアン
ルチアンドラウ



トゥリノ



アグス
プディアント

Terima kasih 令和元年
9月帰国



ミフタフディン



ビラル

IWWIからの研修生、ミフタフ
ティンさん、ビラルさんが帰国
されました。お疲れ様でした。

『安全祈願祭(地鎮祭)』報告

小高い山を開いた高台にある山陽小野田・楠企業団地は、視界良好の明るい場所に位置します。ここに来年秋、敷地面積 25,386㎡、工場建屋 12,150㎡の計画で鈴秀工業の山口第二工場が完成する予定です。

建設に先立ち、さる令和元年9月17日、予定地となるこの地の神様へのご挨拶と、工事の無事安全を祈願する『安全祈願祭(地鎮祭)』が執り行われました。

富士産業様、高山産業様、ヤマネ鉄鋼建設様、池田工業様、NDEN様ら協力企業各位も参加いただき、当社からは鈴木清詞社長・鈴木喜雄専務・鈴木雅貴常務出席のもと、古式に則って「刈初(かりそめ)」「穿初(うがちぞめ)」「鍬入(くわいれ)」の地鎮の儀を厳かに終えることができました。

いよいよ鈴秀工業「令和ものがたり」のはじまりです。



Selamat Datang di Agung Suzuhide

ようこそ鈴秀へ

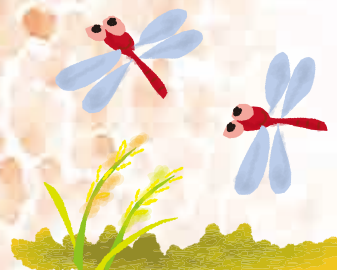


ダルマワン



レンドラ

IWWIからの研修生です。



『鈴秀四季』の目的と役割

- この紙面を通じて、社員相互のコミュニケーションを円滑なものとし、一体感と独自性を持った組織運営の一助となる。
 - この紙面を通じて、鈴秀の未来・将来へつながる経営の方向性や方針を、社員及びその家族へ伝える一助となる。
 - この紙面を通じて、鈴秀社員として会社及びそれを取り巻く環境についての認識知識を共有できる一助となる。
 - この紙面を通じて、ここ鈴秀で働く仲間たちの活躍やエピソードをピックアップし、一部なりとも紹介できる一助となる。
- なによりも、この紙面は鈴秀社員各位の協力と工夫によって作り上げられ、その一頁一頁が風土、文化へ昇華することを願う。

編集後記

この秋号が皆さんの手元に届く頃には、ラグビーワールドカップも佳境に入っていると思います。日本ラグビー(ブレイブ・ブロッサムズ)は決勝戦に進んでいるかな?ルールもあまり詳しくないですが、かなり興奮してテレビ観戦していました。秋はスポーツ観戦に一喜一憂するもよし、スポーツに汗するのもいい季節になりました。また、カルチャースクールのサイトを調べて自分に合った講座を受講してみるのもいいんじゃないでしょうか。充実した秋を過ごしましょう。「下手な考え休むに似たり」あまりあれこれ考えずに、まずは一歩踏み出してみよう。新たな発見が必ずあると思います。わたしは、今年9月からサックスを始めて、いまはまだ基礎練習中ですが、来年の今頃にはジャズの名曲でも吹けるように努力していきたいです。みなさんも何か始めてみませんか? 酒井

編集後記

今年は、秋と言っても暑い日が続いており、秋らしくないなあと感じていますが、木々が色づいているのを見るの間違いない秋になっていてびっくりします。夏号で、ラーメン紹介コーナーが一旦お休みとなり、秋号より新たに、「ありがとうのわ」というコーナーが始まります。誌面を通じて鈴秀に「ありがとうのわ」が広がっていくのが楽しみです。私も、感謝されるような行いが自然と出来る人でありたいなあと思います。今回は、チーフのひとり言を書いています。記事にも書きました、「人への思いやり」が、出来る人であれば、みんなをハッピーにさせるのではないかと感じました。私がこのコーナーで紹介される事があるのかは不安ですが…。そして、健康イノベーションの「鈴秀リボンプロジェクト」紹介。男性の方は関係ないと思わず、ぜひ、家へ持ち帰り、奥様や娘さん、お母様など女性に、読んで頂けたら幸いです。 南部

次回冬号は1月中旬発行予定

値段を1冊500円に下げた